



平成 18 年度 大学機関別認証評価

# 評価結果報告書

平成 19 年 3 月 29 日

財団法人 日本高等教育評価機構

## 9 新潟医療福祉大学

### 認証評価結果

#### 【判定】

評価の結果、新潟医療福祉大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしていると認定する。

#### 【認定期間】

認定期間は、平成 18(2006)年 4 月 1 日から平成 25(2013)年 3 月 31 日までとする。

#### 【条件】

特になし。

### 総評

新潟医療福祉大学は、平成 13(2001)年に開学し、開学後 5 年という短い期間にもかかわらず、建学の精神を「優れた QOL サポーターの育成」(QOL=Quality of Life)という端的な言葉で表現し、学内の印刷物及びホームページなどを通して学内外に周知させ、保健・医療・福祉にかかわる専門職者の育成に特化した取組みがなされている。

教育研究組織の最高審議機関である「総務会」を核として、教授会を含めた意思決定プロセスが整備されており、各種会議との連携が十分になされている。

大学の使命・目的に沿った教育目標及び年次ごとの学習目標が設定されており、各学科においては、医療福祉基礎科目群をコアとして、教養分野と専門分野とそれぞれの科目群が体系的に編成されている。また、特記事項としても取上げているように、基礎ゼミ、総合ゼミなど全学的な連携教育や問題基盤型学習(PBL=Problem Based Learning)方式による授業は、教育目的を反映するものであり、特徴的な取組みである。

学習支援は、学年担任、アドバイザー、あるいは卒業論文、卒業研究の指導教員によって行われ、学生や保護者の意見が集約され、学生サービスの改善に向けた努力もなされている。さらに、キャリア開発・就職支援について、教職員全体でかかわっており、就職率に具体的な成果として表れている。

F D (Faculty Development) に関しては、開学当初より積極的かつ組織的に取り組んでおり、「F D 委員会」を中心に講演、ワークショップ、「ランチオン F D」など多様な研修プログラムが提供され、また、教育研究活動の支援においても、それぞれの部署の目的や内容に応じて適切に職員が配置され、サポート体制が構築されている。

財政面においては、開学後、学部、学科増設などに伴う借入金の増加はあるものの、帰属収支差額が十分に確保されており、収支のバランスはとれている。また、教育研究目的を達成するための十分な施設設備が確保されており、適切に維持、運営されている。

卒業生をはじめとする地域の専門職者のリフレッシュ教育を目指して「新潟医療福祉学会」を立上げ支援するなど、大学の資源を地域社会に提供することに努めている。また、「J1 リーグに所属するアルビレックス新潟(プロサッカーチーム)のジュニア層の選手に

対する栄養指導、学生ボランティアサークル「レクア・コム」の活動や障害のある子供の親の会「キッズ」と学生団体である「キッズ」との協同による大学軽食堂運営など、社会連携・貢献の枠組みにとどまらず学生の教育にも効果の高い取組みがなされている。

開学間もないこともあり、社会的責任という点では十分とは認められないものの、教職員の意識高揚も含めた今後の体制整備に期待したい。

総じて、保健・医療・福祉における大学としての特徴を生かしながら、地域との連携が機能するよう体制が構築されており、多くの優れた点を指摘することができ、特に改善すべき点は見当たらなかった。参考意見は、今後より質の高い高等教育機関として発展・向上し続ける上で参考とされたい。

## 基準ごとの評価

### 基準 1 . 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

#### 【判定】

基準 1 を満たしている。

#### 【判定理由】

建学の精神、大学の基本理念及び使命・目的(以下「基本理念等」という)については、抽象的な表現ではなく、具体的で分かりやすく定められている。そして、この基本理念等を「優れたQOLサポーターの育成」という端的な言葉で表現することにより、受け手側に印象が強く残る形で学内外に周知度を高めている点は評価できる。また、学生歌においても「生命の質を」と題するなど、一貫した基本理念等が打ち出されている。

具体的な取組みとしては、年報、広報誌、学生便覧などの学内印刷物、さらにはホームページを活用し、反復及び継続により大学の基本理念等を示し、学生の入学時、教員の着任時、大学訪問者の集まりの場などにおいて、学長自らの言葉で基本理念等を説明することで学内外への周知に努めている。

#### 【優れた点】

- ・基本理念等については、「優れたQOLサポーターの育成」という端的な言葉で表現するなど、周知に向けた工夫がなされている。

### 基準 2 . 教育研究組織

#### 【判定】

基準 2 を満たしている。

#### 【判定理由】

教育研究組織の最高審議機関として「総務会」を設置し、これを核として十分な議論、速やかな意思決定、各種会議との連携、実践の流れが機能するように工夫されている。 2

学部7学科、1研究科それぞれが有する利点を生かし、専門職と他職種との連携活動ができるような仕組みが整備されている。

教育機能については、少人数教育により、教育目的を達成する上で適切な授業体制となっている。教育開発・教務・学外実習・倫理の各種委員会を設置し、教育機能を十分に発揮させるよう工夫されている。

教養教育面では、授業科目が基礎教養科目群、教養科目群、医療福祉基礎科目群の3科目群で構成され、医療福祉基礎科目群をコアとして、1年次から段階を経て体系化された教育体制をとっている。また、基礎ゼミの充実により、チーム医療の一員として問題解決に参加するための基礎を培うよう工夫している。日本語教育、情報処理など、現代社会のニーズに応える授業科目が開設され、基礎学力の不足する学生に対する援助も行き届いている。「教養教育会議」「共通教育会議」が設置され、大学全体の意向が教養教育部門に伝わるよう考慮されている。

学内の意思決定においては、アンケート調査などにより、教職員や学生の意見が反映できるシステムとなっている。「企画室」を設置し、学長の提案を具現化する体制も整備されている。

教員の教育力向上に対する意識が高く、FD (Faculty Development)活動を積極的かつ組織的に実践している点は、評価できる。また、「プロジェクト研究センター」を設置して、研究活動の活性化に向けた取組みを行っている点も評価に値する。

#### 【優れた点】

- ・教養教育の授業科目が、基礎教養科目群、教養科目群、医療福祉基礎科目群の3科目群で構成され、医療福祉基礎科目群をコアとして1年次から段階的に体系化されている。
- ・教育研究にかかわる学内意思決定は、「総務会」を核として、各種会議との意思疎通を図りながら意思決定を行うプロセスが整備され、機能している。

### 基準3 . 教育課程

#### 【判定】

基準3を満たしている。

#### 【判定理由】

学科ごとに「優れたQOLサポーターの育成」という大学の使命・目的に沿った教育目標が設定され、年次ごとに学習目標が明示されている。各学科ともに、医療福祉基礎科目群をコアとして、教養分野である基礎教養科目群、教養科目群と、専門分野である専門基礎科目群、専門専攻科目群の合計5科目群に分けて教育課程が編成されている点は、高く評価できる。学外実習も体系化された教育課程の中で効果的に行われており、学外実習施設との連携を図りながら実習内容の充実に取り組んでいる。

学業成績の適正な評価方法としてGPA (Grade Point Average)制度を導入し、これを学習指導に役立てている点も評価できる。

取得する主要な資格や免許は、各学科において、学習目標の一つとして明示されている。

国家試験合格、免許・資格取得へ向けての学習支援体制が充実しており、国家試験不合格者に対する学習援助も行っている。

基礎ゼミ、基礎ゼミ、総合ゼミという一連の流れの全学的連携教育は、大学の教育目的である「優れたQOLサポーターの育成」を反映するものであり、高く評価できる。社会福祉学科における学生の地域活動への参加や看護学科における問題基盤型学習(PBL)方式の導入なども、教育目的を反映した教育内容・方法である。

#### 【優れた点】

- ・各学科ともに、医療福祉基礎科目群をコアとして、教養分野である基礎教養科目群、教養科目群と、専門分野である専門基礎科目群、専門専攻科目群の合計5科目群に分けて教育課程が編成されており、教育目的が十分反映された教育課程である。
- ・1年次前期には基礎ゼミで大学生活を送るための基礎的な能力を育み、1年次後期には基礎ゼミで学科間連携を通してチームワークを実践する基礎を養い、専門教育を終了した4年次には総合ゼミで改めて複数専門職間の連携を学ぶという一連の全学的連携教育の試みは、よく工夫されたものであり高く評価できる。

#### 基準4．学生

##### 【判定】

基準4を満たしている。

##### 【判定理由】

「優れたQOLサポーターの育成」という大学の理念に基づき、全学共通及び各学科のアドミッションポリシーが明確にされ、受験生及び関係者への周知が図られている。多様な入学試験が用意されており、入学試験も適切に行われている。

入学時から学年担任あるいはアドバイザー、3年次後期から卒業までは卒業論文・卒業研究の指導教員による学習支援が行われ、学習支援の面において十分に機能している。また、授業評価、各種アンケート調査などを通して、学生と保護者の意見を集約し、意見への回答を行うことで説明責任を果たしながら、サービスの改善に努めている。

キャリア開発・就職支援については、教職員全体でかかわっており、具体的な成果として就職率に表れている。

##### 【優れた点】

- ・大学の理念に基づき、全学共通及び各学科のアドミッションポリシーが明確にされており、ホームページ、学生募集要項などの文書、さらに高校別進学ガイダンスやオープンキャンパスの機会に直接説明するなど、受験生及び関係者に周知が図られている。
- ・入学時から学年担任あるいはアドバイザーによる学習支援が行われ、3年次後期から卒業時までは卒論・卒業研究の指導教員による学習支援が行われるなど、学習支援の責任分担が明確にされ、「学科会議」を軸に、関係者の連携が図られている。
- ・キャリア開発・就職支援に教職員全体でかかわるシステムとなっており、専門職者とし

での就職率も高く、具体的成果として表れている。

#### 【参考意見】

- ・作業療法学科における収容定員の超過については、早期に検討されたい。
- ・「健康管理センター（仮称）」の設置、心理相談の機会増、教職員向け心理相談研修、心理相談の窓口としての心理相談担当委員の設置、学生向けパンフレットの作成など、健康管理に関する懸案事項の実現に期待したい。

#### 基準 5 . 教員

##### 【判定】

基準 5 を満たしている。

##### 【判定理由】

教育課程の遂行に必要な教員が確保され、適切に配置されている。新設大学であることも影響し高齢化の傾向がみられるが、若手の育成と補充に努力が認められる。

採用・昇任の基準として研究業績、教育業績、大学運営、社会活動があげられ、それぞれ明確な方針に基づき、審査が行われている。

教員の標準担当授業時間数は明確で、一部教員への加重負担もみられるが、改善の方向性が示されている。

多様な学内研究奨励金が競争的経費として提供され、意欲ある教員の研究活動のバックアップが行われている。また、科学研究費補助金の申請講習、委託研究費を取得するための「地域・産官学連携室」など、教員の研究活動のバックアップ体制が充実している。

F D (Faculty Development) に関しては、「F D 委員会」を中心に講演、ワークショップ、「ランチオン F D」など、多様な研修プログラムが提供され、活用されている。また、教員による授業の見学を実施するなど、ピア・レビューの土壌作りを進めている。

##### 【優れた点】

- ・多様な学内研究奨励金が競争的経費として提供され、意欲ある教員の研究活動のバックアップが行われている。若手教員向け研究費（萌芽的研究費など）も設けられ、活用されている。
- ・「F D 委員会」を中心に講演、ワークショップ、「ランチオン F D」などの多様な研修プログラムの提供や教員による授業見学の実施など、ピア・レビューの土壌作りが進められている。

#### 基準 6 . 職員

##### 【判定】

基準 6 を満たしている。

#### 【判定理由】

「事務組織規程」に基づき、それぞれの部署の目的や内容に応じて職員が配置されている。「職員昇格選考規程」「職能資格制度規程」「人事考課規程」が整備され、適切に運用されている。また、職員の資質向上に向けて、SD (Staff Development)の意識も高く、OJT (On-the-Job Training)を中心に資格取得、語学研修制度など多様な研修メニューを整備し、職員に対する教育支援体制が構築されている。今後は、職員の専門性の蓄積にさらに取組まれ、組織力向上を通じて強い大学経営を追求されることが期待される。

教育研究への支援については、教務課を中心に、組織的に修学支援、就職指導、国家試験受験対策などを行うとともに、「地域・産官学推進室」を中心に、学外資金の獲得に取り組んでいる。

#### 【参考意見】

- ・人事異動の制度化、人事制度の体系化など、事務組織の編制のさらなる充実を期待したい。

### 基準 7 : 管理運営

#### 【判定】

基準 7 を満たしている。

#### 【判定理由】

法人の業務・経営方針を決定する理事会、法人と大学の運営を円滑にし、意思疎通を図り、理事会決定を確実に遂行する機関としての「学内連絡会」、教育研究組織の最高審議機関としての「総務会」を設置し、大学運営の基本的体制は整備され、おのこの有効に機能し大学が堅実に運営されている。理事長・学長はリーダーシップを発揮し、その責務を十分に果たしている。

理事会、評議員会は学外の幅広い分野から選任し、広範な視野・観点から編制されている。開催回数はやや少ないが予算・決算など大学経営の基本的な事項は審議されている。「学内連絡会」は月次で開催され、理事会と大学との意思疎通・連携・協調の充実強化に重要な機能を果たしている。また、理事長も出席し経営方針の確実な伝達と大学教学現場の状況把握にも有効に機能している。大学「総務会」は活発に教育研究にかかわる重要事項を審議し、学部教授会をリードし大学運営方針の教職員への啓発に努めている。

自己点検・評価活動については今回が初めてであるが、開学時より毎年度「年報」を作成発行し、教育研究活動の状況を年度単位でまとめている。「年報」を含め、自己点検・評価活動の結果を大学運営に反映させようとする意識は高く、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルがさらに有効に働く学内体制の構築が期待できる。

## 基準 8 . 財務

### 【判定】

基準 8 を満たしている。

### 【判定理由】

開学年度以降、完成年度を含め大学の財務状況は計画通り進んでいる。学部、学科及び大学院研究科の増設など設備投資を行うため借入金が増加、負債率の上昇、流動比率の低下などが発生しているが、全て有形固定資産の増加に繋がっている。消費収支計算書においては、帰属収支差額が十分に確保されており、収支のバランスがとれている。会計処理も「学校法人会計基準」及び学内規定に基づき、適正になされており、内部監査及び外部監査も適切に行われ、機能している。

財政公開においては、電子媒体の活用も含め十分とは認められないが、学生の保護者に対して、大学の運営をまとめた冊子の中で財務状況も盛り込み、全員に送付するなどの取り組みを行っている。

今後も、安定した学生数の確保、借入金の着実な返済を図っていくほか、先行きの学部増設などの設備投資を展望し、基本金の計画的積み立てなど中期的な財務計画を策定し、堅実な財務運営が期待される。

外部資金の導入については、科学研究費補助金の申請など積極的な展開を目指しており、より充実した取り組みが期待される。

## 基準 9 . 教育研究環境

### 【判定】

基準 9 を満たしている。

### 【判定理由】

教育研究目的を達成するために十分な広さの校地、校舎に、室内温水プールや要所の学内 LAN の設置、またバリアフリーも対応されており、医療福祉系大学としてふさわしい諸施設・設備が適切に配置されている。

また、終日警備員を駐在させ巡回を行うなど、法人事務局の適切な施設管理のもと、教職員等が連携し、適切に維持、運営されている。懸案の学生駐車場を建設しているほか、今後の学科増設などの対応のため教室、学生食堂などの増設を実施している。

## 基準 10 . 社会連携

### 【判定】

基準 10 を満たしている。



#### 【判定理由】

卒業生をはじめとする地域の専門職者のリフレッシュ教育を目指して「新潟医療福祉学会」を主導的に立上げ、学術集会の開催や学会誌の発行、また市民公開講座の実施、研究センターによる専門職向けセミナーの開講など大学の資源を地域社会に提供している。

教育研究の企業や他大学との連携においては海外大学（中国ハルビン医科大学など）との交流協定締結、J1リーグに所属するアルビレックス新潟（プロサッカーチーム）のジュニア層の選手に対する栄養指導を教員の指導を受けながら学生が請け負うなどは、特徴的な取り組みである。

地域社会との連携・協力においては学生ボランティアサークル「レクア・コム」の活動や、障害のある子供の親の会「キッズ」と、それに呼応した学生団体「キッズ」が協同して大学軽食堂の運営にあたるなど地域社会貢献はもちろんのこと、保健・医療・福祉の大学として学生教育にも大きな役割を果たしている。

このように大学の教育理念・目的に基づき地域社会への貢献、社会との交流・連携・協力関係の構築に意欲的に取り組んでいる。開学間もないこともあり、一層の市民公開講座の充実、施設・病院などとの実習教育レベルを超えた提携・共同研究、そして「大学の知」の社会還元などについてはまだ十分とは認められないが、より一層の努力が必要であるとの認識と意欲がうかがわれ、今後の充実が期待される。

#### 【優れた点】

- ・学生ボランティアサークルである「レクア・コム」は、教員の指導の下、障害者などを対象としたレクリエーション活動へ積極的に参画するなど活発な活動を行っており、全国的にも高く評価されている。
- ・障害のある子供の親の会「キッズ」と、それに呼応した学生団体「キッズ」が協同して大学軽食堂（交流サロン Kids）の運営にあたり、学生が子供たちと自然に交流できるなど、目に見える形として障害児・者の存在と社会参加の実際を体験できる場になっている。

#### 基準 11 . 社会的責務

#### 【判定】

基準 11 を満たしている。

#### 【判定理由】

大学に求められる社会的責務を確実に果たすために、組織倫理・危機管理・広報活動の基本的な規定や管理運営体制は整備されている。今後は、教職員へ周知徹底し、継続的な意識向上への取組みに期待する。

「就業規則」において服務及び規律・勤務について基本的事項を明示するとともに、「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則」「個人情報保護に関する規程」なども整備されている。また合同教授会場でセクシュアル・ハラスメントの防止に関する啓発活動として、全学生・教職員に「セクシュアル・ハラスメント防止のリーフレット」を配付、

相談員を配置するなど適切な運営がなされている。

危機管理においては開学間もないこともあり、その体制は十分とは認められないが、大学独自の「学生総合保障制度保険」を設けるなど、学内の重要テーマとして位置づけ、積極的に検討されている。

教育研究成果の広報活動体制については、「学術委員会」による「新潟医療福祉学会誌」、学科の「卒業論文集」、「広報委員会」による広報誌「QOLサポーター新潟」の発行など、基本的な広報活動を行っている。また、広報内容のチェック管理については「広報委員会」を中心に入念な点検が実施されている。

評価結果に対する大学からの意見申立て  
特になし。

新潟医療福祉大学の概況（平成 18(2006)年 5 月 1 日現在）

- 1 . 名 称      新潟医療福祉大学
- 2 . 開設年度    平成 13(2001)年度
- 3 . 所 在 地    新潟県新潟市島見町 1398 番地

4 . 設置学部・研究科の構成（ 2 学部   7 学科   1 研究科）  
学部・学科

学部名	学科名
医療技術学部	理学療法学科    作業療法学科    健康栄養学科 健康スポーツ学科    看護学科
社会福祉学部	社会福祉学科

研究科

研究科名	専攻名
医療福祉学研究科	保健学専攻    社会福祉学専攻

新潟医療福祉大学に対する平成 18 年度大学機関別認証評価のスケジュール

年月日	内容						
2005 年							
9 月 30 日	平成 18 年度大学機関別認証評価申請書を受理						
12 月 12 日	平成 18 年度大学機関別認証評価自己評価担当者説明会の開催						
2006 年							
2 月 1 日	大学へ「実地調査日程」の通知						
5 月 24 日	大学へ「評価員候補者」の通知						
7 月 6 日	平成 18 年度大学機関別認証評価担当評価員セミナー（大阪）の開催						
7 月 11 日	平成 18 年度大学機関別認証評価担当評価員セミナー（東京）の開催						
8 月 4 日	自己評価報告書を受理						
8 月 4 日	自己評価報告書及び関連資料を評価チームに送付し、書面調査を開始						
9 月 11 日	第 1 回評価員会議開催						
10 月 13 日	基準ごとの質問事項等を作成（評価チーム）し、大学へ送付						
11 月 14 日	実地調査の実施						
~11 月 16 日	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>11 月 14 日</td> <td>第 2・3 回評価員会議開催</td> </tr> <tr> <td>11 月 15 日</td> <td>第 4 回評価員会議開催</td> </tr> <tr> <td>11 月 16 日</td> <td>第 5 回評価員会議開催</td> </tr> </table>	11 月 14 日	第 2・3 回評価員会議開催	11 月 15 日	第 4 回評価員会議開催	11 月 16 日	第 5 回評価員会議開催
11 月 14 日	第 2・3 回評価員会議開催						
11 月 15 日	第 4 回評価員会議開催						
11 月 16 日	第 5 回評価員会議開催						
12 月 8 日	第 6 回評価員会議開催						
12 月 20 日	調査報告書案の取りまとめ（評価チーム）						
2007 年							
1 月 11 日	大学へ「調査報告書案」の送付						
1 月 24 日	大学から「調査報告書案」に対する意見申立てを受理（意見なし）						
2 月 5 日	第 2 回大学評価判定委員会の開催（認証評価の判定及び「評価報告書案」の取りまとめ）						
2 月 13 日	大学へ「評価報告書案」の送付						
2 月 26 日	大学から「評価報告書案」に対する意見申立てを受理（意見なし）						
3 月 29 日	第 8 回評議員会・第 8 回理事会の開催（「評価報告書案」の承認） 大学へ評価結果（「評価報告書」）を通知 大学へ認定証・認定マークを送付						

新潟医療福祉大学提出資料一覧

自己評価報告書、評価機構が指定する資料・データ（資料編）

- 1．自己評価報告書（付：FD）
- 2．自己評価報告書 資料編（付：FD）

添付資料

	内容	名称
1	大学案内等	大学アクセスマップ、キャンパスマップ 2006 CAMPUS GUIDE CAMPUS GUIDE 2007 新潟医療福祉大学 2001 年度 年報 Q O L サポーター新潟 No.11
2	教育研究の基本的な組織図	教育研究の基本的な組織図
3	教授会など教育活動を展開するための各種会議体の組織図	教育活動を展開するための各種会議体の組織図
4	授業期間	平成 18 年度 授業期間
5	学年暦(大学及び大学院)	平成 18 年度 学部学事暦 平成 18 年度学生便覧・シラバス（新潟医療福祉大学大学院）
6	募集要項等	平成 18 年度学生募集要項
7	アドミッション・ポリシーが確認できる資料	
8	学習支援体制の組織図	学習支援体制のシステム
9	事務局組織図、事務分掌等業務内容が把握できる資料	事務局職務分掌
10	理事、監事、評議員等の名簿	理事、監事、評議員等の名簿
11	法人(管理)部門の組織図	法人(管理)部門の組織図
12	管理部門と教学にかかわる各種委員会等との連携がわかる資料	管理部門と教学にかかわる各種委員会等との連携がわかる資料
13	資金収支計算書、消費収支計算書(いずれも単年度で最新のもの)、貸借対照表(過去5年間分)	資金収支計算書(平成17年4月1日～平成18年3月31日) 消費収支計算書(平成17年4月1日～平成18年3月31日) 貸借対照表(平成14年3月31日～平成18年3月31日)
14	財務に関する方針、中期計画等	財務に関する方針
15	財務の公開状況について	新潟医療福祉大学 運営状況報告

は同一資料を表す